

THE KOBECOCO

November '98 No. 450



月刊神戸っ子 11

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
1998年11月1日印刷 通巻450号
1998年11月1日発行 毎月1回1日発行

RKOISO

月刊神戸っ子450号記念
没後10年

小磯良平特集



小磯良平「合唱」

宝飾業
60周年
Anniversary



kinoshita
pearl

木下真珠 パールサロン神戸 〒650-0003 神戸市中央区山本通1-7-7 (北野坂) TEL.078-221-3170・9426 FAX.078-221-9427

ブランドミックスショップ
「リフレクト」

京都高島屋に

9月23日 OPEN!

ここに行けば何かが見つかる…

新しい発見がある…

リフレクトはブランドの粋を越えた

ミセスのための コーディネートスペースです

REFLECT

WORLD



★長い間、待っていました、こんな店を。
ファッション感覚の鋭いミセスたちがいつも思っていたこと。流行の服だけど若い子しか着られないサイズ、ミスのころにはもつと自由に選ぶことができたのになぜ? とか、大人の女性に合わせたブランドでは、ちょっと納得いかないものばかりと想っていた貴方、京都高島屋3階にひろいスペースで「リフレクト」がオープン。5つのワールドブランドが一緒になって、より多くのアイテムのなかから上質な素材やカラダにぴったりりの着心地いい服がコーディネートできます。きつと「あらっ、ぴったり」とうれしくなって「リフレクト」も「ワールド」も大好きになるはずですよ。
ショップの奥には、ちょっと和風の落ち着いた雰囲気をもつ「リフレクトカフェ」が。幾種類もの紅茶やバニーやワッフルなどがあるので、ショッピングのあとのティータイムにぴったりです。



ワールドのオリジナルブランド、コルディア、リニア、ビルダージュール、ピセス、レイドロークがワンフロアに集合した「リフレクト」は、すっきりした空間で洋服選びがゆっくりとできる



清楚なインテリアの「リフレクトカフェ」

REFLECT

京都高島屋 3階婦人服売場「リフレクト」ショップ
TEL. (075) 221-8811

*Silent
Message*



JEWELRY **タジマ**

神戸市元町2丁目TEL.078(331)5761

小磯良平画伯とにしむら珈琲店



小磯良平先生が亡くなられて十年目。懐かしくなつて久しぶりにこの絵を出してみました。先生は来店されると、いつも決まったソファの席に座られ、おひとり静かにコーヒーを飲んでいらつしやいました。

ある日、この絵がかかつている時に先生が来られたので、「この絵は本当に先生が描かれたものですか？」

すると先生は額をはずされて、「まちがいないく僕のもので」と。

この絵を見ているとそういつた先生とお出合いを嬉しく、懐かしく思い出します。

川瀬 喜代子

(にしむら珈琲店オーナー)



北野坂にしむら珈琲店

神戸市中央区山本通2・1・20

TEL.078-242-2467

喫茶 10:00~22:00

レストラン 11:00~21:00 (オーダーストップ)

年中無休

KOBE EXCELLENT FASHION

Sanohe

秋から冬のKOBEを彩る
大人の女性のためのSanohe selection



KOBE EXCELLENT SHOP

※このシリーズは下記の専門店の提供によるものです。

★選りすぐった一点を…。

Sanohe

本店 神戸市中央区元町通2丁目5-7 TEL.331-4707
ヌーベルクラフト 神戸市中央区元町通2丁目5-11 TEL.321-1710

★神戸唯一のボルボネーゼトータルブティック

BOUTIQUE
Omura

神戸市中央区元町通3-2-18
ボルボ店 TEL.391-0014
ピアノコ・ドンナ店 TEL.391-4601

★よろず御機衣縫上處

神戸シヤリ

神戸市中央区三宮町3丁目1-6 TEL.331-2168



LIZA

神戸市中央区三宮町2丁目6-1 TEL.391-6806

★婦人帽子

maxim
マキシム

神戸市中央区北長狭通2丁目6-13(トアロード)
TEL.331-6711 全国有名百貨店婦人帽子売場

★伝わる真ごころ最高の風格



柴田音吉洋服店

神戸市中央区元町通4丁目2-22 TEL.341-1161



フランス元大統領 ジスカルデスタン氏に聴く

(株)カミネ 社長 上根 保



9月末、アラブ首長国連邦のドバイで開催されたAIIHH（国際高級時計宝飾業協会）総会には、世界中から有名ブランドの社長、専門店のオーナーら190名が集まった。

総会では元仏大統領のジスカルデスタン氏が加わり「ユーロとユーロピアン」をテーマに苦労話を聞かせてくれた。彼は48才で大統領となって以来25年間、ヨーロッパ統合に力を尽くしてきた。今世紀前半の2回の世界大戦で多くの人は、いまだ心に傷を負っていた。彼はいかに戦争を防ぎ、平和を維持するかを思索しついにユーロの概念を理解した。以来、11回、崩壊の危機を乗り越え、あと僅か90日に迫った来年1月1日、通貨統合の第一ステップを踏み出す。

域内人口は3億7150万人、面積は323万5千平方kmだが、ドル、ユーロ、円のトライアングルが実現する日も近い。彼や故ミッテラン氏、シュミット氏の心情を察し、その歎びを共感した次第である。共同体歌は、ベートーベンの第九番、第四楽章「歓喜の歌」である。「苦悩を越えて歓喜に至れ！」その曲はまさにユーロピアン苦悩の過去と、将来への賛歌である。指導者たちの歎びはいかばかりか。そしてこの経験と制度を、ぜひ次の世代へ譲りたいと熱っぽく語った。

瘦身上品な老人の静かな語り、テーブルを越えて、ほどばしる平和への熱い想いが私の胸をうつ。沖縄敗戦の悲劇で仲間すべてを失い、独りだけが生き残ってしまった私の胸に彼の言葉は鋭く突き刺さった。「平和を説くことに怠りはないか？」と。今春、私ども夫婦でジュネーブの国際赤十字本社を訪れ、平和に献身する職員の対応に感動した時と同じ心の痛みを感じた。世界を行き来して、最近感動することが多い。

カミネの社歴92年も苦悩と歓喜の交錯であったが、これからも、より高い倫理観をもって自社を律していく決意である。AIIHHという国際協会は（企業倫理、品質、ロジステック（流通問題）国際ネットワークを生かした顧客サービスの構築）を研究している。このマークのある店では世界中同じフレンドリーで最高のサービスが受けられる。なぜならその店の顧客は、すべてAIIHHの顧客だからである。

また、この国際高級時計宝飾店協会では「贅沢」の研究もテーマとなっている。「高級世界に住む人々への最高のサービス」を提供するのが高級専門店である。このマークの認知が、店の信頼とサービス、何世代にも受け継がれる安心感につながると信じている。

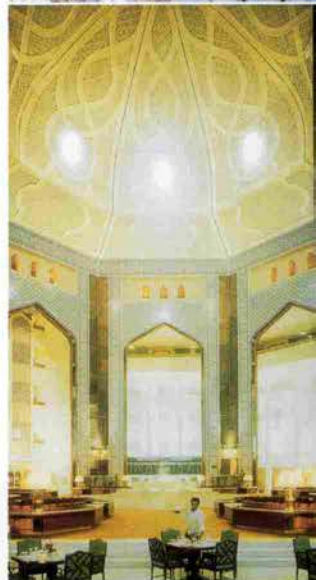


ASSOCIATION
INTERPROFESSIONNELLE
DE LA HAUTE HORLOGERIE

Fine Jewelry ◀ Fine Watches

カミネ

神戸市中央区三宮町3丁目1トアロード大丸前
TEL.078-321-0039 FAX.078-325-5277
URL <http://www.jin.or.jp/kamineco/>
E-mail kamineco@jin.or.jp



●月刊神戸っ子450号記念企画●

印象派画家たちが描いた食卓

—ホテルビエナ神戸 中村新シェフが絵画の中の料理を再現—



ルノワール、モネ、マネ、ピサロ…。印象派画家たちが描いた作品の多くに食卓がみられる。豊かな食文化を反映するように、それらの食卓には何らかの食べ物が登場し、絵そのものにある一種の生命力をあたえているようだ。

そして、今年には日本におけるフランス年。これを記念して、フランス印象派画家たちの描いた料理を再現し、当時を偲び、味わい、そして感動しよう。

開催日/平成10年12月18日(金)

時間/正午より2時間の予定(受付11時30分より)

場所/相楽園(神戸市中央区)

募集人数/100名~150名

会費/10,500円(税込み)

内容/印象派の絵画について

…神戸芸術文化会議副議長 伊藤 誠

展示内容兼会食の料理、ワインと絵画について

…ホテルビエナ神戸総料理長 中村 新

印象派時代を偲ぶ立食パーティー

…コーディネーター「C's」主宰 佐藤 恵津子

- 主催 ホテルビエナ神戸(レストランパトリー、菓子Sパトリー) 月刊神戸っ子
- 後援 フランス領事館・兵庫県・神戸市・神戸市国際観光協会・神戸日仏協会・日仏友好のモニュメント日本委員会・エールフランス
- お申し込み先/住所、氏名、電話番号、を明記の上
ハガキの方は/〒650-0011神戸市中央区下山手通3-1-18
ツインズトアビル4F
月刊神戸っ子「印象派画家たちの食卓」係まで
FAXの方は/078・331・2795までお送りください
- お問合せ/TEL.078・331・2246(月刊神戸っ子)



淡路漁友社の横山澄明さん(左)と中村新シェフ(右)

中村新シェフの

素材こだわり塾

第8回 淡路の魚と秋

この素材こだわり塾の前身であるボワゾン塾で、以前関鮨を使いました。覚えていらっしゃるお客さまは初回からのご出席ということで、賞状ものですが、その時に魚が美味しい理由を挙げました。かいつまんで書きますと、速い潮流、変化のある潮流、起伏のある海底、急激な水深の変化です。これらは容易に魚を獲ることが出来ない漁場となっているため、勇気ある漁師の一本釣りによって得られる魚となるわけです。

たかが鮓、されど鮓。大きさも40cmをかるがると超える大物となれば、脂の量も多く、刺身にして最高です。昨今の関鮓、関鮓のブームは

流通の迅速化が生んだ産物といえましょう。

この関鮓と並んで有名な「肩書き」をもった鮓があります。その名は「トツカ」。淡路の近海に棲む中型の真鮓をさしてこう呼びますが、何故このような名前となっているかは分かりません。漁師に聞いても分からず謎のまま。十束と書いて「トツカ」と呼ばせれば、名魚10匹を束にしてかかっても負けない味である…という理由も書けそうですが、漢字もなく由縁は不明ですが、そのうちお知らせできるように勉強しておきます。ただこの魚たちの美味しさは何ともいえません。濃い味覚の関鮓とは異なる



トツカ鮓のマリネのサラダ仕立て(左)

淡路牛と丹波栗の炭火焼き(右)

り、海老類の香りがするかと思えば、海草の香りもあり、脂の乗りも程々で、刺身、焼きもの、何でも美味しくあがるのです。

美味しい鮓を中心に、親しみやすい魚を大切にしている淡路の海を思い出させるようなメニューの数々であった。

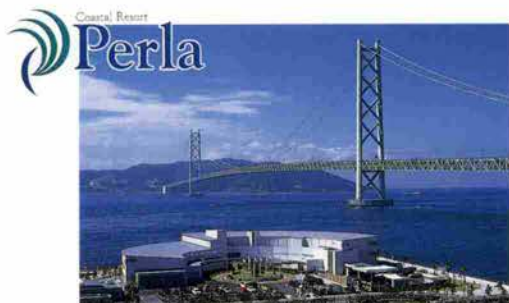
◆メニュー◆

- トツカ鮓のマリネのサラダ仕立て
- 淡路の蟹の香りをつけたメロンのスープと気仙沼の牡蠣
- 長ハゲとフォアグラのパン粉焼き
- 淡路牛と丹波栗の炭火焼き
- 洋なしのフォンダン

RESTAURANT PATRIE

レストランパトリー
神戸市中央区二宮町4-20-5(ホテルビエナ神戸2F)
TEL. 078・272・1313
菓子Sパトリー
神戸市中央区北長狭通1-3-10TEL.078・393・0222

●月刊神戸っ子450号記念 愛読者サービス企画予約制●



感動のパールブリッジ
サンライズ&サンセットをあなたに!
美と健康の1泊アクアタイム

コースタル・リゾートホテル ペルーラ宿泊
夕食・朝食とタラソマッサージ (3つのコースからお選びください)
○タラサンテ&オリエンタルマッサージ ○タラサンテ&リフレッシュマッサージ
○タラサンテ&フェイシャルマリエントリートメント
お一人様 ¥24,500
12月1日(月) 2(火) 3(水) 4(木) 4日間限定
■お申し込み 月刊神戸っ子・小泉美喜子 TEL.078-331-2246 FAX.078-331-2795



レストラン ネプチューン



オブジェ作家の嘉納千砂子さん(右)もおすめ



左から村上愛美マネージャー、西口草之シェフ、ソムリエ緒方章司さん

**海とパールブリッジを眺めながら
リラックスタイムを**

明石海峡に架かるパールブリッジを眺めながら、気軽にフレンチが楽しめるレストラン。神戸ならではの海の幸・山の幸をおり込んだメニューと厳選ワインが揃っているのが嬉しい。

TEL.078-708-1711
営業時間/11:00~22:00 (L O 21:00)



リフレ・スパ アクアガーデン



「それぞれのお客様に合ったプログラムを組みます」。芝美知也支配人と土井洋子トレーナー

**アクアがはぐくむ美と健康
関西初スパプール&タラソエステ**

水の特性を生かした温浴施設「スパプール」と日本でここだけのエステマシンやジェットシャワーを備えたタラソエステ。日々の疲れが溶けていくようだ。

TEL.078-708-2811
営業時間/10:00~22:00



コースタル・リゾートホテル ペルーラ



スイート(写真上/1泊¥50,000)とセミスイート(中/¥25,000)。右はフロントの石黒めぐみさん

**全室オーシャンビューの
カジュアルホテル**

四季を通じて海辺のリゾートがゆったり楽しめるプチ・ホテル。部屋はぜいたくなフローリングで、海と橋を望む広い窓が魅力。グループでスイートルーム(1泊¥50,000)に泊まるのもいいかも。

TEL.078-708-2711



アクセス
JR神戸線舞子駅より徒歩約5分
山陽電鉄霧ヶ丘駅より徒歩約6分
第2神明高丸ICより車で約10分

コースタル・リゾート **ペルーラ**

株式会社 舞子リゾート

〒655-0036 神戸市垂水区海岸通11-1
TEL.078-708-6780 FAX.078-708-6783



—神戸のクラフトアート—
第11回 ヘリー・バスキ



トラジャ地方の椅子



ヘリー・バスキ
(木工家具アーティスト)
インドネシア在住

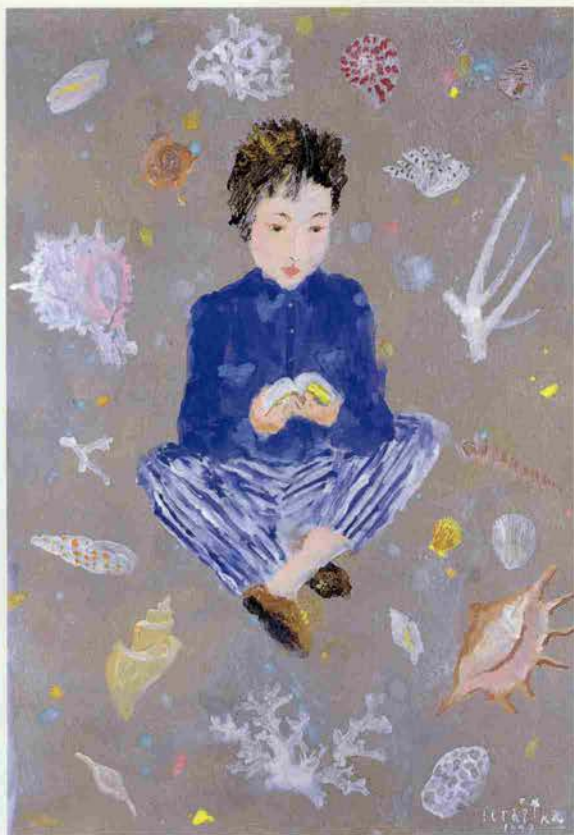
ジャワ伝統文化の伝承者として、インドネシア木工家具を制作するアーティスト。国際文化協会の東ジャワ州芸術家12人のメンバーに選ばれ、世界各国の政府から要請されて、ジャワ文化を紹介するため活動している。10月に来神し、現在、日本文化を取り入れた作品を構想中。

“ベイシティバンクかんしん”は「共感・対話・信頼」を企業理念として、地域の文化・芸術の育成に努めております。

この“かんしんストリートギャラリー”も芸術の香りをほのかに漂わせたアートのスポットとして、本年は「神戸のクラフトアート（工芸美術）」と題したシリーズで様々な作品を紹介してまいります。



生田新館に面したストリートギャラリー



これは神戸を愛する人々の雑誌です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です

11月号目次●1998—450

表紙／「斉唱」小磯良平（兵庫県立近代美術館蔵）

目次／「通信—リンドバーク夫人から—」寺門孝之

月刊神戸っ子450号記念

RKOISO 小磯良平特集

— 没後10年 —

I. 小磯良平の世界「見事な気品と優雅さ」伊藤誠	12
II. 父をしのぶ「私の好きな絵」嘉納邦子 師をしのぶ「没後10年に寄せて」小島俊夫	14 15
神戸新百景「小磯記念美術館」石阪春生 撮影＝池田年夫 私の意見「芸術のまち神戸へ、わたしの思い」鞆本昌男	18 20
III. 小磯良平先生をしのぶ 「小磯良平先生の思い出」武田誠郎 「小磯良平先生の絵のモデルになって」星住輝子	22 23
IV. 特別対談「小磯良平かく語りき『よく見てごらん』」 妹尾河童 vs. 石阪春生	24
V. 「小磯良平画伯をしのぶ」青木重雄	28
VI. 月刊神戸っ子450号記念 表紙コレクション	32

神戸っ子`98/武田時子 衣川秀樹	36
神戸のお嬢さん/吉田知香子 佐々木久子	38
コウベスナップ	40
日本タウン誌協会座談会「地域に根ざし多彩な情報発信を」	
神戸っ子 日本橋 Town はりま バスケット マイ奈良	60
おなじみプロフェッサーPの研究室/岡田淳	63
ある集い/元町ミュージック実行委員会 神戸波の会	64
タカラヅカReport「若手演出家3人パワホールで競演」	66
亀井一成のズーム in ZOO「類人猿の寝相拝見！」	68
はるにゃんのHYOGO WALK「おいしいごはんを食べよう県民運動」	70
中村友一の味な街「ホテルオークラ神戸・メインバーエメラルド」	72
ビット・イン	73
啓介いろは歌「ありがとうは歌」今井啓介	74
鬼頭先生の人生教室/矢ジマジユン	75
小関みか子のTASTYゴルフ「450号記念プレゼント」	75
イベント情報&チケットプレゼント「MODE CULT 98-11」	76
ポケットジャーナル	78
ルボ・神戸の工房をめぐる	
「トアロード・クラフトアートフェアと東ジャワ木工家具の職人」	
福元早夫	80
有馬歳時記「男性パーティサポーター誕生」	82
花隈・松酒家ものがたり「松酒家をとびだしてみると」うどのようこ	84
海 船 港「世界最大のコンテナ船P&Oネドロイドコウベ」	
撮影＝米田定蔵	86
KFSニュース「北野工房のまちづくり」松宮隆男	88
神戸っ子倶楽部/法人会員募集のご案内	89
北野ホットニュース/お可川 TAO ホテルグランドビスタ	90
うまいもん&ドリンクング	94
神戸百店会だより	95
カメラ/米田定蔵 池田年夫 松原卓也 森田篤志 森田純三 米田英男 三宮写真室	28
デザイン/松永高俊 南真理子	32

—没後10年—
RKOISO 小磯良平特集 I

小磯良平の世界

見事な気品と優雅さ…文／伊藤誠 〈美術評論家〉



二人の少女
1946(昭和21)年
油彩・キャンバス
80.5×60.5
神戸市立小磯記念美術館所蔵



自画像
1925(大正14)年頃
油彩・キャンバス
30.1×30.1
兵庫県立近代美術館所蔵

神戸の住人には、小磯良平さんの展覧会はもうかなりなじみがあるといっているだろう。特に当方のように仕事としても関わりがあった者には、たいていの作品に何度も対面している。でも、いつも接する度に気持が揺さぶられ、心が洗われる思いがする。(漂う気品と優雅さ。人物画はもちろん、数少ない風景画に於ても…) また何回かに一度は初めてお目にかかる作品とも出会えて、すばらしい感銘をいただく。今回も、いや今回は「没後10年」という意義ある展覧会だからこそ特にか、当方には初対面の作品が何点かあって本当にうれしかった。

小磯さんご自身ともお元気な時に、それこそ何十度とお会いしているのだが、今になると最初の出会いはつきり覚えていないのが口惜しい。昭和二十六年(一九五一年)に地元新聞の美術担当記者になって以来、いろいろお世話になっていくというのに。そんな中で一番印象に残っているのは、昭和三十六年、抽象画全盛の欧米旅行から帰られた直後、早速に訪ねて行った当方へ「具象画の伝統の見事さに改めて感心。私は今後も



練習場の踊り子達
1938(昭和13)年
油彩・キャンバス
191.0×180.0
東京国立近代美術館所蔵

この世界で徹底して努力する覚悟を得られた」と、静かに決意を聞かせて下さった時だ。思えば穏和な方であったが、それを支える強い信念の人でもあった。

小磯さんはまた実に心優しい人。その一例をあげると一昭和五十八年、新設の姫路市立美術館へ赴任した当方のために、初年度「小磯良平展」の開催を承諾して下さいました。実は同年三月から七月にかけて同画伯の作品展が神戸を含む国内五カ所で巡回することが内定しており、通常ならばどの画家でも規模の似た展観を（しかも同県内で）年内にはなさらないはずなのである。それを「あなたの美術館のオーブン記念なんだから…」と快諾。秋に開催することができた。（うれしいことにその展観中に画伯の文化勲章受賞が発表された。）

二十世紀も終わりに近づいた昨今だが、戦後の美術界で（特に日本で）西欧アカデミズムの技法を今日に活かしながら、その伝統を引き継ぎ佳品を発表し続けた画家は、世界中で小磯さんが第一人者ではなかるうか、という気が強くする。すばらしい方であった。